

平成24年度

事業報告書

公益財団法人かわさき市民活動センター

平成24年度

事業報告

- 1 当法人の現況に関する事項
 - (1) 事業の経過及びその成果
 - (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況
 - (3) 主要な事業内容
 - (4) 重要な契約に関する事項
 - (5) 会員に関する事項
 - (6) 職員に関する事項
 - (7) 役員会等に関する事項
 - (8) 対処すべき課題
- 2 役員等に関する事項
 - (1) 理事
 - (2) 監事
 - (3) 評議員
 - (4) 退任した役員等
 - (5) 役員等の報酬等

事業報告の附属明細書

- 1 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況
- 2 事業の実施状況について補足すべき重要な事項【事業概要】
 - (1) 市民活動推進事業
 - (2) 青少年健全育成事業
 - (3) 法人の運営

事業報告

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

事業別	予算額 (千円)	決算額 (千円)	達成率 %
市民活動推進事業	98,320	92,636	94.2%
青少年健全育成事業	2,782,122	2,696,302	96.9%

(2) 直近3事業年度の財産及び損益の状況

(単位：千円)

区分	平成22年度 (4-6月期)	平成22年度 (7-3月期)	平成23年度	平成24年度 (当事業年度)
経常収益	1,147,730	1,778,985	2,808,007	2,838,554
評価損益等調整前 当期経常増減額	398,591	△414,159	50,717	17,123
当期経常増減額	398,591	△414,159	50,717	17,123
正味財産期末残高	645,102	223,723	275,932	290,709

注：平成22年度は、分ち決算です。

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業 市民活動に関する調査・研究事業 市民活動に関する人材育成及び相談事業 市民活動の促進・支援事業 関係機関・関係団体等との連携 その他目的を達成するために必要な事業 (理事会又は評議員会で決議する事業)
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成に関する事業 青少年施設の管理運営の受託 関係機関・関係団体等との連携 その他目的を達成するために必要な事業 (理事会又は評議員会で決議する事業)

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
平成24年4月1日	川崎市	合計 2,628,626,419円	H24.4.1から H25.3.31まで	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

(5) 会員に関する事項

種類	前年度末	当年度末	増減
賛助会員 (団体)	39団体	38団体	△1団体
賛助会員 (個人)	194名	105名	△89名

(6) 職員に関する事項

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局長	風間 達穂	H22. 04. 01	事務局の総括	重要な使用人
総務課長	加藤 明男	H22. 04. 01	課の総括	
市民活動推進課長	入口 茂	H24. 04. 01	＃	
青少年事業課長	大倉 萬里子	H22. 10. 01	＃	(参事)
青少年事業課主幹	島 忍	H22. 10. 01	エリアマネージャーの総括	
その他の職員 (嘱託職員を含む)				310 名

(7) 役員会等に関する事項

ア 理事会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 1 回	平成 24 年 5 月 25 日	議案 1 規則の改正について 2 年度協定書の締結について 3 平成 23 年度事業報告及び決算について 4 平成 24 年度第 2 回評議員会の開催について 報告 1 平成 23 年度経営改善計画の進捗管理について 2 騒音差止等請求事件の進捗状況について	可決 可決 可決 可決 了承 了承
第 2 回	平成 24 年 6 月 8 日	議案 1 理事長の選定について 2 副理事長及び常務理事の選定について	可決 可決
第 3 回	平成 24 年 11 月 28 日	議案 1 規則の改正について 2 平成 24 年度第 3 回評議員会の開催について 報告 1 平成 24 年度上半期の事業報告について 2 騒音差止等請求事件の進捗状況について 3 職員の処分について 4 職員採用試験及び昇任試験等について 5 全市的イベントの実施予定について	可決 可決 了承 了承 了承 了承 了承
第 4 回	平成 25 年 3 月 14 日	議案 1 規則の改正について 2 平成 24 年度 3 月補正予算について 3 平成 25 年度事業計画について 4 平成 25 年度予算について 5 平成 25 年度第 1 回評議員会の開催について 報告 1 騒音差止等請求事件の進捗状況について 2 全市的イベントの実施結果について 3 役員賠償責任保険への加入について	可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第1回	平成24年 4月17日 (臨時評議員会)	議案 1 経営改善計画について 報告 1 規則の改正について 2 平成23年度3月補正予算について 3 平成24年度事業計画について 4 平成24年度予算について 5 内部管理体制の整備について 6 騒音差止等請求事件の進捗状況について 7 全市的イベントの実施結果について 8 職員の処分について	可決 了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第2回	平成24年 6月8日 (定時評議員会)	議案 1 平成23年度事業報告及び決算について 2 理事の任期満了に伴う改選について 3 監事の任期満了に伴う改選について 報告 1 規則の改正について 2 年度協定書の締結について 3 平成23年度経営改善計画の進捗管理について 4 騒音差止等請求事件の進捗状況について	可決 可決 可決 了承 了承 了承 了承
第3回	平成24年 12月19日 (臨時評議員会)	報告 1 規則の改正について 2 平成24年度上半期の事業報告について 3 騒音差止等請求事件の進捗状況について 4 職員の処分について 5 職員採用試験及び昇任試験等について 6 全市的イベントの実施予定について	了承 了承 了承 了承 了承 了承

(8) 対処すべき課題

平成22年9月に提起された訴訟「騒音差止等請求事件」について

〔原告〕省略

〔被告〕川崎市、公益財団法人かわさき市民活動センター

〔裁判所〕横浜地方裁判所川崎支部

当財団では、顧問弁護士を訴訟代理人に委任して、本事件に対応していますが、弁論準備期日を終え、口頭弁論と和解の話し合いが行われているところです。

2 役員等に関する事項

(平成25年3月31日現在)

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	H24.6.8から H26.6定時評議 委員会まで	常勤	有	LET'S国際ボランティア交流会 代表
副理事長	大下 勝巳	〃	非常勤	〃	特定非営利活動法人 かわさき創造プロジェクト 代表
副理事長	福田 武雄	〃	〃	〃	川崎市青少年育成連盟 理事長
代表理事 (常務理事)	太田 直	〃	常勤	〃	
理事	飯田 嘉徳	〃	非常勤	〃	
〃	石井 康昭	〃	〃	〃	
〃	小原 良	〃	〃	〃	川崎市PTA連絡協議会 会長
〃	金井 則夫	〃	〃	〃	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 理事長
〃	鈴木 眞智子	〃	〃	〃	
〃	難波 一尚	〃	〃	〃	公益財団法人 横浜市老人クラブ連合会 理事長

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	宮 洋世紀	H24.6.8から H26.6定時評議 委員会まで	非常勤	有	
〃	小菅 猛	〃	〃	〃	

(3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	岡村 修	H22.7.1から H26.6定時評議 委員会まで	非常勤	有	
〃	齊藤 準	〃	〃	〃	
〃	三枝 博男	〃	〃	〃	
〃	佐藤 知久	〃	〃	〃	
〃	菅原 陽子	〃	〃	〃	
〃	竹井 斎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事長
〃	仁藤 公子	〃	〃	〃	
〃	東田 乗治	〃	〃	〃	
〃	前田 成東	〃	〃	〃	

(4) 退任した役員等

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由
柏木 靖男	副理事長	平成 24 年 6 月 8 日	任期満了により退任
飯田 和子	理事	〃	〃
小宮山 健治	〃	〃	〃
牧野田 恵美子	〃	〃	〃
安岡 信一	〃	〃	〃

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額 千円	備考
理事	15名	6,160	(常勤及び非常勤)
監事	2名	104	(非常勤)
評議員	9名	168	(非常勤)
合計	26名	6,432	

注1：上記には、平成 24 年 6 月 8 日開催の定時評議員会の終結のときをもって、任期満了により退任した理事 5 名を含む。

2：理事、監事及び評議員の報酬額は、平成 22 年 7 月 1 日開催の評議員会において了承された「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

3：評議員の報酬の限度額は、「定款」第 15 条において、毎年度総額 30 万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

1 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

区分	氏名	兼職先法人名	兼職の内容
理事	金井 則夫	公益財団法人川崎市生涯学習財団	理事長
	難波 一尚	公益財団法人横浜市老人クラブ連合会	理事長

2 事業の実施状況について補足すべき重要な事項【事業の概要】

(1) 市民活動推進事業

ア 会議室・フリースペース等管理運営事業

会議室・印刷室・フリースペースやパソコン等作業活動コーナーは、延べ4,848の団体(利用人数25,072人)に活用されました。市民活動ブースは、平成24年度から1室を複数の市民活動団体が共同利用できるように規定を整備し、共同利用も含め全5室中4室、延べ543回の利用がありました。また、14団体に後援名義の使用承認を行いました。

詳細は以下のとおりです。

日程	内容	備考
通 年	ア 登録団体数(新規) 58 団体	登録団体数 634 団体
		【前年度との比較】
	イ 会議室の利用状況 利用団体数 915 団体	(前年度 894 団体)
	ウ 印刷機の利用状況 利用団体数 486 団体	(前年度 465 団体)
	エ フリースペース・パソコン利用状況 利用団体数 3,447 団体	(前年度 3,155 団体)
	オ 市民活動ブースの利用状況 (※複数団体での共同利用を開始)	
	(ア) 利用団体数 : 全5室中4室を6団体で利用 (うち1室は3団体で共同利用)	(前年度) (全5室を5団体で利用)
	(イ) 利用回数 延べ543回	(前年度 357回)
	カ ロッカー・レターケースの利用状況	
	(ア) ロッカー(大) 60台(72) (イ) ロッカー(小) 9台(9) (ウ) レターケース 27台(57) ()内は全台数	

市民活動ブース利用団体

1	2	3	4	5
・持続可能な地域交通を考える会 ・川崎の交通とまちづくりを考える会 ・川崎フューチャーネットワーク (3団体の共同利用)	・特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ川崎拠点(ナルク川崎)	・特定非営利活動法人さえの会	・特定非営利活動法人グローイン・グランマ	空室

イ 情報提供・啓発事業

(ア) 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

ボランティア・市民活動に関する様々な情報を提供するため、毎月各 10,000 部（1・4 面フルカラー、2・3 面モノクロ）を発行し、市内公共機関、関係団体及び賛助会員に配布しました。

また、視力障害者に情報を提供するため各月号の音声テープを作成し、市内希望者等に配布しました。

(イ) ボランティア・市民活動募集冊子の発行

ボランティア・市民活動に参加したいという市民向けに、市内の活動団体の情報を掲載した小冊子「ボラナビ」を、川崎市社会福祉協議会と協同で 5,000 部発行し、市内関係機関・団体、小・中・高等学校等に配布しました。

(ウ) 神奈川新聞紙面へのコラム連載

ボランティア・市民活動の人材育成（情報発信力の向上）の一環として、公募した市民記者の取材・執筆によるボランティア・市民活動等に関する様々な情報を、神奈川新聞社の協力を得て、同紙の土曜版に「市民発 地域をつくる人・活動」と題した記事として連載しています。

(エ) ホームページ及び応援ナビかわさきの運営

a ホームページをリニューアルしました。月平均 4,000 件を超えるアクセスがあり、バナー広告が 2 件増え、協賛広告料で 316,800 円の収入がありました。

b 応援ナビかわさきについては、川崎市内における市民活動のポータルサイトとして役立つよう、イベント・講座、ボランティア募集、団体詳細、民間助成金等の最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めました。

c 新着情報などをまとめたメルマガジンをメルマガ会員（116 会員）あてに月 1 回発行しました。

ウ 交流促進事業

(ア) かわさきボランティア・市民活動フェアの開催

平成 25 年 1 月 26 日、中原市民館及びかわさき市民活動センターにおいて、ボランティア・市民活動フェア実行委員会と、川崎市社会福祉協議会との共催により「かわさきボランティア・市民活動フェア」を開催しました。当日はラテンパーカッションバンド「ザ・ボルケー

ノ」によるオープニング演奏、市民活動団体パネル展示（54 団体）、団体企画（25 団体）、災害ボランティア活動助成金受給団体による活動紹介（10 団体）、地域作業所作品展示販売などが行われ、延べ1,500名の参加がありました。

(イ) 市民活動交流会「ごえんカフェ」の開催

平成 25 年 2 月 8 日に、分野を越えた連携・交流等を目的に、市民活動交流会「ごえんカフェ」を開催しました。ボランティア・市民活動に関心のある市民や市民活動団体・企業・行政・学校関係者等から 108 名の参加がありました。

エ 研修・相談事業

(ア) ボランティア・市民活動入門講座の開催

小・中・高校生を対象にボランティア活動の活動体験等を主とした「チャレボラ 2012」を、市・区社会福祉協議会・川崎市公園緑地協会・川崎授産学園との共催で実施しました。47 プログラムに 349 名（小学生 156 名・中学生 128 名・高校生 64 名・大学生 1 名）が参加し、オリエンテーション、活動体験プログラム、活動のまとめと振り返りを行い、修了証を渡しました。

かわさき市民活動センターは、「体験！かわさきを支えるボランティア」をテーマに、中原図書館・市民ミュージアム等の協力を得て、11 プログラムを担当し、50 名（小学生 8 名・中学生 18 名・高校生 24 名）の参加がありました。

(イ) 市民活動基礎講座

これから地域で市民活動を始めたいと考えている方を対象に市民活動基礎講座を開催しました。8 名の参加者があり、講座受講のほか、今後の市民活動への参加の契機となるよう、ボランティア・市民活動フェアを見学参加いただくとともに、地域で活動している団体での活動を体験していただきました。

(ウ) ボランティア・市民活動団体パワーアップセミナーの開催(一部市社協と共同開催)

組織マネジメントの視点での研修を 9 回開催し、181 名の参加がありました。

詳細は以下のとおりです

日 程	内 容	参加者	会 場 等
4 月 21 日	(1) 「伝わるプレゼンテーション」 ～助成金獲得の成功に向けて～ 講師：伊藤清和氏（元富士ゼロックス東京（株）CSR 部社会貢献グループ）	19 名	かわさき市民活動センター
5 月 12 日	(2) 「新会計基準を学ぶ」～NPO法 改正 何がどう変わったの!?～ 講師：早坂 毅氏 （税理士法人 早坂会計 代表社員）	27 名	かわさき市民活動センター
6 月 16 日	(3) 「団体間のつながりを考える-1」 ～つながり作り事例発表～ 講師：竹迫和代氏（参画はぐくみ工房）	7 名	かわさき市民活動センター
6 月 30 日	(4) 「団体間のつながりを考える-2」 ～つながりプロジェクトを考える～ 講師：竹迫和代氏（参画はぐくみ工房）	中止	ワークショップ成立せず中止
7 月 28 日	(5) 「facebook 有効活用法」 ～NPO の広報、ソーシャルメディアを考える～ 講師：山田泰久氏（日本財団 CANPAN）	24 名	かわさき市民活動センター

9月 3日	(6)「魅せるチラシとは?ひきつけるキャッチコピーとは?」 ～手に取ってもらえるチラシの作り方～ 講師:渡辺潤平氏(渡辺潤平社代表・コピーライター)	46名	かわさき市民活動センター
10月13日	(7)「A子さんのドタバタ会計ストーリー②」 ～これで安心!決算書への実務・応用編～ 講師:益尾博子氏(東京JAPAN税理士法人)	9名	エポック中原
11月24日	(8)「長続きする団体を目指す」 ～活動の目的や今後の目標を確認しよう～ 講師:手塚明美氏 (NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会事務局長)	11名	エポック中原
12月15日	(9)「企画書作成のコツ教えます!」 ～考えをカタチにする～ 講師:佐谷和江氏(計画技術研究所代表取締役)	23名	エポック中原
2月23日	(10)「報告書作成のコツ」 ～相手に伝わる報告書とは?～ 講師:手塚明美氏 (NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会事務局長)	15名	エポック中原

(エ) 災害ボランティア養成講座

災害時におけるボランティアの養成を目的に、災害ボランティアの心構え・今日必要な危機意識と備え等についての講義や災害ボランティアセンターのシミュレーション体験・救命講習会を実施しました。平成24年10月6日・20日・11月3日・11月17日・12月8日の5回コースで開催し、28名の参加がありました。

(オ) 市民活動相談の実施

職員による窓口や電話による相談のほか、活動経験のある市民相談員による相談窓口を設けています。詳細は以下のとおりです。

日 程	内 容
通 年	延べ170件 (内訳) 職員124件、市民活動相談員46件 (方法別:来所 117件、電話 53件)

(カ) NPO法人の手続き等に関する相談の実施

NPO法人の会計相談を東京地方税理士会と共催で通年6回試行したところ、5団体6件の相談がありました。また、川崎市との共催による、市職員により、NPO法人の設立などに関する相談を、毎月第3水曜日にセンター窓口で実施し、通年8件の相談がありました。

(キ) 職員及び役員の派遣状況

各団体の要請に基づき、次のとおり職員及び役員を講師として派遣しました。

a 職員派遣状況

回	日 程	内容(テーマ等)	対象者	開催場所
1	6月12日	保育ボランティア養成講座	市 民	生涯学習プラザ
2	10月25日	市民活動について	専修大学学生	専修大学生田
3	12月13日	ボランティア保険について	花と緑受講者	中原区役所
4	2月7日	KSソーシャルビジネス相談会	K S 修了生	専大サテライト

5	2月28日	保育ボランティア入門講座	市 民	多摩市民館
6	3月24日	かながわ非営利組織フォーラム	市 民	神奈川韓国会館

b 役員派遣状況

回	日 程	内容（テーマ等）	対象者	開催場所
1	5月23日	高津区まちづくり協議会 講義「市民活動について」	市 民	高津区役所
2	5月24日	識字ボランティア入門講座 「外国人に関するボランティア活動と心構え」	市 民	麻生市民館
3	7月31日	川崎市食生活改善推進員連絡協議会リーダー研修「いきいきと活動を続けるために」	市 民	高津区役所
4	9月6日	宮前区運動普及推進員・食生活改善推進員養成講座「健康づくりと地域でのボランティア活動」	市 民	宮前区役所
5	9月7日	中原区運動普及推進員・食生活改善推進員合同フォロー講座「ボランティアを続けるためのコツと心構え」	市 民	中原区役所
6	9月26日	シニアのための生涯学習講座「キャリアアップとしての市民活動」	市 民	中原市民館
7	10月29日	いきいきリーダーフォローアップ講座「市民活動をより効果的に行うために」	市 民	エポック中原
8	2月5日	高津区食生活改善推進員・運動普及推進員合同フォロー教室「いきいきと活動するために」	市 民	高津区役所
9	2月9日	目指そう！アクティブシニア達のセミナー 「シニア世代の地域活動」	市 民	やまゆり
10	3月9日	中原市民館生涯学習交流集会「地域課題解決の一步に向けて」	市 民	中原市民館

(ク) インターンシップ等（就業体験）の受入れ

茨城大学から2名（12日間）、中央大学から1名（17日間）、専修大学KSソーシャル・ビジネス・アカデミーから2名（3日間）の研修生を受け入れました。

(ケ) ボランティアの他団体への推薦

かわさき市民活動センターから推薦した、松井 三夫氏が、今日までの地域福祉施設、被災地でのボランティア活動の功績が認められ、第50回川崎市社会福祉大会において、川崎市社会福祉協議会会長表彰を受賞しました。

オ 連絡調整事業

(ア) 川崎市社会福祉協議会との連絡調整

ボランティア・市民活動についての調整会議を1回、市民活動フェアについての会議を3回、人材育成講座の共同開催についての会議を3回開催しました。

(イ) 行政機関との連絡調整

市民・こども局との定例会、区役所や区社協との情報交換会等を必要に応じて開催しました。また、各区役所および市民・こども局と市民活動拠点施設関係者会議を共同開催し、市拠点及び各区拠点での市民活動の支援状況などの情報交換等を行いました。

(ウ) 川崎防災ボランティアネットワークの運営

事務局として、今年度の定例会が円滑に開催できるよう、所属団体間の調整等所要の準備を進めました。また、市からの要請に基づき、平成24年度川崎市総合防災訓練（麻生区）にネットワークから8名の方に参加いただきました。

(エ) 大学連携事業

専修大学ネットワーク情報学部との連携による市民活動団体への広報支援事業を毎年度実施しておりますが、平成24年度は12団体の参加があり、PR映像作品や団体パンフレットの作成支援を行いました。

参加した団体のうち、4団体が作成したPR映像作品が、第4回かながわNPO映像祭において入賞しました。

カ かわさき市民公益活動助成制度運営事業

スタートアップ助成及びステップアップ助成30・100・200の4つのわかりやすいメニューに改めました。また、助成金制度の基本的な見直しを図るため、「かわさき市民公益活動助成金制度検討プロジェクト」を開催しました。

詳細は以下のとおりです。

日程	助成内容	交付額
通 年	【募集期間】 平成24年2月9日～3月8日 【審査方法】 書類審査及び公開プレゼンテーション 【結 果】 (1) スタートアップ助成 交付4団体（申請10団体） (2) ステップアップ助成 交付47団体（申請56団体）	22,065,318円
	審査委員会 第1回（平成24年4月15日） 第2回（4月25、26日） 第3回（5月19、20日）	平成23年度公開事業報告会 第一次選考（書類審査） 第二次選考（公開プレゼンテーション）
	制度検討プロジェクト 第1回（平成24年8月9日） 第2回（8月29日） 第3回（10月1日） 第4回（10月29日） 第5回（11月30日） 第6回（平成25年1月28日）	（検討結果） ・審査基準等の文言の整理 ・報告会の運営方法の一部変更 ・交付団体へのアンケート調査等の実施 ・実施スケジュールの前倒し（H26年度） ・新たな助成メニューの検討（同上）

キ 川崎災害ボランティア活動助成事業

東日本大震災の被災地への継続支援を図るため、活動対象期間の延長等について、要綱の整備を行い、9団体からの申請があり、合計516,489円を交付助成しました。

ク 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度運営事業

本事業については、前年度より引き続き川崎市から受託し運営しました。詳細は以下のとおりです。

日 程	内 容	備 考
通 年	ボランティア事故申請件数 35 件	対象件数 35 件（傷害 33 件） 保険金支払対象件数 35 件 （内取り下げ 1 件）
	保険金支払済額 2,954,479 円	内訳（発生年度別） 24 年度発生分 1,034,070 円（25 件分） 23 年度発生分 1,149,280 円（8 件分） （1 件未処理） 22 年度発生分 771,129 円（2 件分）
	ボランティア補償制度説明	花と緑のまちづくり講座（公園緑地協会）

ケ 賛助会員の確保

賛助会員につきましては、次のとおり、個人・団体の皆様からのご支援、ご賛同いただきました。

日 程	内 容	備 考
通 年	賛助会費団体 220,000 円(38 団体 44 口) 賛助会費個人 205,000 円(105 人 205 口) 計 425,000 円	賛助会費 ・団体 1 口 5,000 円 ・個人 1 口 1,000 円

コ 募金・寄附等の取組

(ア) ボランティア・市民活動募金

市民活動促進事業への寄附等を募るために、募金箱を当センター窓口、市内事業者の協力を得て各店舗へ設置しております。

募金箱、その他を合わせ、平成 24 年度は 24,574 円のご寄附をいただきました。

(イ) 東日本大震災義援金募金

被災地域の復旧復興、被災者への支援を行うため、当センター窓口にも募金箱を設置し、義援金を募りました。市内こども文化センターにも寄附が寄せられ、合計 28,826 円の寄附がありました。

なお、義援金は神奈川新聞厚生文化事業団をとおして、被災地域の支援に供しております。

(2) 青少年健全育成事業

これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター53館・わくわくプラザ101施設を適切に管理・運営しました。主な取り組みは次のとおりです。

ア こども文化センター運営事業

(ア) 快適な居場所づくり

基幹業務として、こども文化センター及びわくわくプラザでは、子どもたちに安全・安心かつ楽しい居場所の提供を行い、児童の健全育成を図りました。

a こども文化センター利用状況の推移

利用状況の推移は次のとおりです。

利用者別	22年度 (55館)	23年度 (53館)	24年度 (53館)	
乳幼児	229,591	229,467	246,871	(+17,404)
小学生	690,465	656,239	638,780	(-17,459)
中学生	204,436	194,586	187,044	(-7542)
高校生	48,365	47,371	41,532	(-5,839)
成人	357,161	350,049	366,924	(+16,875)
総利用人数	1,530,018	1,477,712	1,502,196	(+24,484)
市民活動利用団体数	10,377	9,723	10,101	(+378)

*24年度の()内は前年度との差

b わくわくプラザ児童の登録及び利用状況の推移

平成24年度は、当財団が所管する市立101校の在籍児童数62,857名のうち、28,092名が登録し、約45%の登録率となります。月間の平均利用児童数は122,963名、1日の平均利用児童数(土曜日を含む)は5,038名、登録児童数の18%でした。

登録及び利用状況の推移は次のとおりです。

年度	在籍児童数	登録児童数	登録率	1ヶ月平均利用人数	一日平均利用人数
22年度 (106校)	66,476	28,789 (832)	43%	119,774 (6,418)	4,810 (263)
23年度 (101校)	62,833	27,913 (837)	44%	116,709 (6,221)	4,695 (250)
24年度 (101校)	62,857	28,092 (825)	45%	122,963 (6,059)	5,038 (249)

*在籍児童数及び登録児童数は3月現在の数 ()内は特別な支援を必要とする児童数

(イ) 乳幼児の子育て支援

平成24年度は、延べ6,590団体(1館平均124団体)の乳幼児サークルが、こども文化センターを利用しました。場の提供による支援に加え、館独自の乳幼児向け行事(親子コンサート・パネルシアター・ベビータッチケア等)、関係諸団体の協力を得た行事(簡単なおやつ講座・子育てセミナー・親子リトミック・食育講座等)、栄養相談や乳幼児身体測定などを開催しました。

地域子育て支援会議等に参加し、情報交換を行うと共に、地域の子育てネットワーク作りにも積極的にかかわりました。

(ウ) 中学生・高校生の利用促進

中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし、異年齢交流行事ほか、様々な工夫を凝らした行事に取り組み、利用の促進を図りました。

また、居場所作りの一環として整備された音楽室のある南河原、宮崎及び白山こども文化センターについては、中学生・高校生の地域音楽活動の拠点としての利用促進を図りました。

音楽室の利用状況は次のとおりです。

施設名	年度	利用団体数	利用者人数				
			小学生	中学生	高校生	一般	合計
南河原	22年度	654	30	81	1,105	415	1,631
	23年度	921	32	158	1,515	495	2,200
	24年度	826	17	47	1,031	502	1,597
宮崎	22年度	475	0	16	587	427	1,030
	23年度	534	6	285	609	464	1,364
	24年度	662	2	315	361	628	1,306
白山	22年度	682	72	172	1,304	348	1,896
	23年度	883	13	0	1,530	407	1,950
	24年度	910	25	44	1,425	703	2,197
合計	22年度	1,811	102	269	2,966	1,190	4,557
	23年度	2,338	51	443	3,654	1,366	5,514
	24年度	2,398	44	406	2,817	1,833	5,100

(エ) 地域活動拠点としての利用推進

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ではありませんが、児童の利用が少ない時間帯を中心として、地域のボランティアや市民活動グループ等の方々にも活動の場として利用していただきました。

平成24年度は、延べ22,232団体（1館平均419団体）の利用がありました。活動内容は、会議や打合せのほか、卓球、コーラス、ダンスといった趣味の活動にも利用されております。

そうした利用者の一部の方には、ボランティアとして、昨年に引き続き、子どもたちの囲碁教室などの講師になっていただいたり、コンサートを開催していただいたりし、様々なご協力をいただきました。

(オ) 運営協議会の開催

運営協議会は、こども文化センターの運営を、地域と連携して円滑に行うために設置された機関です。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担っていただいているほか、行事等も積極的に主催・参画していただくなど、その役割は多岐にわたっています。

平成24年度は、全市で計301回（各館平均6回）の運営協議会が開催され、合計986名の運営委員の参画がありました。

また、例年通り、「こどもまつり」「さんま祭り」「クリーン作戦」「餅つき大会」等の開催に当たっては、運営協議会のご協力をいただきました。

なお、区単位に、各館共通の課題等について情報の交換・意見集約等を行うため、各館の運営協議会の代表が参加する「区運営委員会」を必要に応じて、開催しました。

(カ) 不登校児の居場所づくりの取り組み強化

不登校児が来館した際に備え、引き続き職員のスキルアップ等を図るなど、適切な対応ができるように努めました。

(キ) 児童の安心・安全確保

安心・安全の確保は、当財団の基本としているところであり、日頃からスタッフによる見守りの強化、遊具等の点検強化に取り組むと共に、区ごとに事故ゼロ運動を推進し、一層の事故防止の向上に努め、各区で「事例検討会」を開催し、職員のスキルアップを図りました。

不審者等については、必要に応じて職員が適切な対応がとれるよう不審者情報をタイムリーに各こども文化センターに発信し、安心・安全の確保に努めました。

(ク) 専門相談員の巡回配置

平成 24 年度のわくわくプラザにおける特別な支援を必要とする児童登録数は 825 名でした。

特別な支援を必要とする児童の対応について、的確な助言や指導を行うことのできるスタッフの相談役として、前年度に引き続き 6 名の元養護学校や小学校校長経験者等の人材を確保し、巡回相談員として配置しました。

(ケ) わくわくプラザ学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図るため、専任アドバイザーを配置し、自学・自習を落ち着いてできる時間と場所を確保して学習タイムを実施しました。

(コ) 研修制度の充実

人的サービスの基本となる職員の資質向上を図るため、昨年度に引き続き、研修委員会を組織し、全館・区・グループ・こども文化センター・わくわくプラザ単位で実施計画を策定し、次に掲げる各種研修を実施しました。

職員の研修については、今後とも、人材育成計画に基づき計画的に実施するとともに、制度の充実に努めてまいります。

a 財団主催の研修

全館を対象とした研修については、児童厚生一・二級指導員資格取得及び新任館長・新任職員の研修を中心に実施しました。現場に即した研修の取組みでは、館長・職員・臨時職員を対象に、アレルギー対応やこどもの人権等をテーマに講演会形式で実施しました。

b 資格取得研修

(a) 児童厚生施設に勤務する職員としての専門的知識の習得を目的として、児童厚生二級指導員の資格取得研修に参加しました。

(b) 館長の資質の向上を目的として、児童厚生一級指導員資格取得研修及び児童厚生一級指導員特別セミナーに派遣しました。

(c) 全正規職員が資格取得することを目標とした児童厚生二級指導員資格については、今年度は 8 名の職員が資格を取得し、全正規職員の 98%が資格取得者となりました。

(d) 児童厚生一級指導員資格については、今年度は 10 名（内 1 名本部職員）の館長が資格を取得し、全正規職員館長の 98%が資格取得者となりました。

(e) 児童厚生一級特別セミナーについては、今年度は正規職員館長 6 名が児童厚生一

級特別指導員の資格を取得し、昨年度と合わせて8名となりました。

(f) キャンプ・レクリエーションインストラクター研修に職員を各3名、評価調査者セミナーに館長を3名、雇用環境整備士研修に本部職員を2名派遣し、それぞれ資格を取得しました。

c 各区の研修

各区を単位とした研修は、区の研修委員が研修プログラムを作成し、「幼児対応研修」「野外活動研修」「コミュニケーション研修」等、実務的な項目を各区の実情に応じて取り上げて実施しました。

d グループの研修

グループを単位とした研修は、2～3の館が合同でグループ行事等に連動した「野外活動研修」「中高生対応研修」「キャンプ研修」「普通救命講習」等の実践的な内容で実施しました。

e 各館の研修

各館を単位とした研修についても、各区の研修と同じく「応急手当研修」「中高生対応研修」「障がい児対応研修」「災害時対応研修」「食品衛生研修」など現場の業務に即した具体的かつ実践的な内容としました。

また、各館では受講した研修の報告の場として定例的に職員会議や情報交換会等を実施し、職員間の情報の共有化を図りました。

各種研修の実施状況は次のとおりです。

	回	内 容	講 師	対 象	参加人数	会 場
財 団 主 催	1	普通救命講習	高津消防署員	館長 職員	2 7	高津消防署
	2	新任職員・館長研修	総務課長 青少年事業課長 青少年事業課職員	館長 職員	4 10	中原市民館 第3会議室
	3	新任職員・館長研修	市民活動推進課職員 青少年事業課職員 社労士 齋藤 哲子 氏	館長 職員	2 20	中原市民館 第4会議室
	4	第1回 主任研修	青少年事業課 運営調整担当主幹	主任	18	生涯学習プラザ 301会議室
	5	野外レクリエーション 研修	遊楽塾職員	職員	4	黒川野外活動 センター
	6	レクリエーションインスト ラクター養成研修	特定非営利活動法人 神奈川県レクリエーション 協会職員	職員	3	県立スポーツ 会館
	7	児童厚生二級取得研修	財団法人児童健全育成推進 財団 職員	職員	8	静岡県 浜松市
	8	第2回 主任研修	グループワーク	主任	18	財団本部 事務会議室
	9	児童厚生一級取得研修	財団法人児童健全育成推進 財団 職員	館長	10	東京都 渋谷区
	10	児童厚生一級 特別セミナー	財団法人児童健全育成推進 財団 職員	館長	7	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター

	11	食物アレルギー研修	昭和大学小児科が区教室 講師 今井 孝成 氏	全職員	740	多摩市民館
	12	第3回 主任研修	プレゼンテーション	主任	18	財団本部 会議室B
	13	子どもの人権について	川崎市人権男女平等参画室 担当課長 西山 俊之 氏	全職員	603	多摩市民館
	14	食物アレルギー研修	川崎市健康福祉局健康 安全室 富樫 まどか 氏	全職員	687	エポック なかはら
	15	キャンプインストラクター 資格取得研修	日本キャンプ協会 職員	職員	3	神奈川県立 相川ふれあいの村
	16	新任職員 フォローアップ研修	ディスカッション	職員	6	財団本部 事務会議室
	17	第4回 主任研修	ディスカッション	主任	18	会議室A
	18	評価調査者認定研修	かながわ福祉サービス 第三者評価推進機構職員等	館長	3	神奈川県 社会福祉会館
	19	雇用整備士資格講習会	(社) 日本雇用環境整備機 構理事長等	本部職員	2	文協シビック ホール
	20	主任・館長 体験本部研修	職員係・事業係・施設係・ エリアマネージャー	主任 館長	3 6	※5日間 ※3日間
川崎区	1	安全管理・事故防止研修	川崎警察・生活安全課 中澤 謙児氏 小巻達也氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	1 17 9 11 3	大師子ども 文化センター
	2	乳幼児対応研修	新町保育園 保育士 田邊 美鈴氏	館長 職員	2 25	藤崎子ども 文化センター
	3	施設見学研修	子ども夢パーク 所長 西野 博之氏	館長 職員	2 22	子ども夢パー ク
	4	児童厚生1級研修 報告会	田島子ども文化センター 小林 謙二 館長	館長 職員	4 25	日進町子ども 文化センター
	5	児童厚生1級研修 報告会	日進町子ども文化センター 白鳥 秀樹 館長	館長 職員	8 24	日進町子ども 文化センター
幸区	1	担当者会議 報告会システム	北加瀬子ども文化センター 川澄 幸代 職員	館長 職員	1 6	幸子ども 文化センター
	2	特別な支援を要する 児童対応	田島養護学校教諭 村越 淑美 氏	館長 職員 チーフ サポーター	2 18 19 57	下平間子ども 文化センター
	3	児童厚生1級研修 報告会	下平間子ども文化センター 丸山 美紀 館長	館長 職員	5 15	下平間子ども 文化センター
中原区	1	DIY研修	青少年事業課人材育成担当 前原 英司 職員	館長 職員	3 22	平間子ども 文化センター
	2	コーチング	(財) 生涯学習開発財団認 定プロフェッショナルコー チ 副島 眞由美氏	館長 職員 チーフ	3 17 16	玉川子ども 文化センター

	3	サポーター他施設体験研修	各わくわくプラザ職員	サポーター	4 7	中原区内小学校 わくわくプラザ
	4	児童厚生1級研修 報告会	平間こども文化センター 久保 香織 館長	館長 職員	8 2 4	平間こども 文化センター
高津区	1	ネイチャーゲームについて	高津こども文化センター 品川 典子 職員	職員	6	宮崎こども 文化センター
	2	気になる児童への対応について	櫻井 正元 巡回相談員	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	1 2 1 2 0 4 1 1	末長小学校 わくわく プラザ
	3	児童厚生1級研修 報告会	二子こども文化センター 佐藤 一行 館長	館長 職員	1 3 1	二子こども 文化センター
	4	児童厚生1級研修 報告会	上作延こども文化センター 仁平 京子 館長	館長 職員	8 2 4	上作延こども 文化センター
	5	主任研修 「幼児行事のワークショップとこども文化センターでできる子育て支援について」	二子こども文化センター 佐野 直子 主任	館長 職員	1 1 4	二子こども 文化センター
宮前区	1	ネイチャーゲームについて	高津こども文化センター 品川 典子 職員	館長 職員	2 1 4	宮崎こども 文化センター
	2	キャンプファイヤー スタンプ	宮前平こども文化センター 黒澤 きよみ 館長	館長 職員	4 1 4	宮崎こども 文化センター
	3	システム担当者会議 報告開	宮前平こども文化センター 黒澤 きよみ 館長 有馬こども文化センター 菅井 亜紀子 職員	館長 職員	1 7	宮前平こども 文化センター
	4	チーフサポーター 情報交換会	ディスカッション	館長 職員 チーフ	3 6 3 0	宮崎こども 文化センター
	5	児童厚生1級研修 報告会	青少年事業課 富樫 和美 エリアマネージャー	館長 職員	7 2 0	平こども 文化センター
多摩区	1	システム担当者会議 報告会	南菅こども文化センター 川本 浩子 館長	職員	1 0	南菅こども 文化センター
	2	コミュニケーション 研修	元長尾小学校教頭 北西 眞知子 氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	3 1 5 2 0 1 2 2	三田こども 文化センター
	3	児童厚生1級研修 報告会	枳形こども文化センター 鈴木 有紀子 館長	館長 職員	2 1 5	枳形こども 文化センター
	4	児童厚生1級研修 報告会	南菅こども文化センター 川本 浩子 館長	館長 職員	4 1 8	南菅こども 文化センター

	5	クレーム対応研修	グループディスカッション	館長 職員	2 15	柘形こども 文化センター
麻 生 区	1	事務研修	ワークショップ形式	館長 職員	1 21	百合丘こども 文化センター
	2	遊び研修（ゲーム・仲間作り等）	王禅寺こども文化センター 前平 八千代 職員 有馬こども文化センター 長谷川 寛隆 職員	館長 職員 チーフ サポーター	1 11 4 11	南百合小学校 わくわくプラ ザ
	3	児童厚生1級研修 報告会	百合丘こども文化センター 塚本 千春 館長	館長 職員	3 20	百合丘こども 文化センター

(サ) 子ども運営会議等の活動促進

こども文化センターでは、行事等を実施するに際しては、子どもたちの意見等をできる限り行事に反映させるため、「子ども運営会議」を開催し、意見等の集約を行っています。平成24年度は、延べ746回（各館平均14回）開催され、延べ5,528名（各館平均104名）の参加がありました。

また、わくわくプラザでも「子ども運営会議」が、延べ1,267回（各わくわくプラザ平均13回）開催され、都合43,195名（各わくわくプラザ平均428名）の参加がありました。

子どもたちの運営により「おばけやしき」や「ミニ運動会」などが、子どもたちの提案により「卓球大会」や「お楽しみ会」などが、実施されました。

(シ) 地域関係機関・関係団体との連携の強化

こども文化センター・わくわくプラザの円滑な事業運営を図るため、「学校、各区役所こども支援室・子育て支援センター・子育て広場、各地域施設利用団体」などの関係機関・団体と連携し各種共働事業を実施しました。

また、特別な支援を必要とする児童への対応強化を図るため、「発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター」などの関係機関との交流の推進、連携の強化に努めました。

(ス) 複数館による合同行事の開催

a 全市域合同事業

子どもの仲間づくりや交流の広がりを促し、「生きる力」「創造性豊かな心」「共感する心」を子ども自身が身につけることを目的に、昨年引き続き、＜ゴーゴー☆かわさキッズ BUNBUN ステージ＞、＜マンカラ大会・子どもサミット＞を、全市域合同事業として実施しました。

＜ゴーゴー☆かわさキッズ BUNBUN ステージ＞は、平成25年1月5日（土）高津市民館において開催されました。20団体（391名）の参加があり、創作ダンス・バンド演奏・ハンドベル等が、市民館の大きな舞台の上で繰り広げられました。観客572名と合わせ合計963名の参加がありました。

＜マンカラ大会・子どもサミット＞は、平成25年1月12日（土）に中原市民館において開催されました。

マンカラ大会の予選参加者（各館の計）は4,539名、子どもサミット予選参加者（各館の計）は6,132名、当日の本選参加者の計は537名、合計11,208名の子どもたちの参加がありました。

なお、マンカラ大会をより盛り上げるため、今大会から個人対抗勝抜き戦を各館対抗勝抜き戦に変更しました。

b 各区事業

(a) 合同行事

各区のこども文化センターが合同で、区内児童の交流と親睦を図ることを目的として地域性を生かした行事を実施しました。

実施状況は次のとおりです。

区	実施年月日	内 容	参加人数	会 場
川 崎	平成24年11月10日 (土)	スマイルフェスタ「宇宙地球を救え!!集まれ!わくわくこ文レンジャー」	200	富士見中学校
幸	平成25年 1月26日 (土)	「さいわいキッズシティ 2013」	164	小倉小学校体育館
中 原	平成24年12月15日 (土)	「ウォークラリー」	130	東住吉小学校体育館
高 津	平成24年11月24日 (土)	探検隊ウォーク ～たちばな～	147	新作小学校体育館橋地区
宮 前	平成24年10月14日 (水)	「ドッジビー大会～みやリンピックシーズン3～」	183	向丘小学校体育館
多 摩	平成24年11月4日 (日)	多摩区7館合同事業 「多摩冒険のやっシーズ2～ブラック団からの挑戦状～」	473	稲田公園
麻 生	平成24年9月29日 (土)	麻生キッズ☆フェスティバル 2012～集え!!最強の忍者たち～	215	王禅寺ふるさと公園

(b) 関係諸機関が主催する行事への参加状況

区役所及び市民館等関係諸機関が主催する行事にも積極的に参加し、こども文化センターのPRを行いました。

参加した各区行事の実施状況は次のとおりです。

区	実施年月日	内 容	会 場
川 崎	平成24年10月20日 (土)	川崎区いきいき健康づくり・子育てフェスタ	教育文化 会館
幸	平成24年10月20日 (土) ～21日 (日)	幸区民祭	幸市民館
	平成25年2月23日 (土)	子育てフェアさいわい	幸市民館
中 原	平成24年11月23日 (金)	なかはら子ども未来フェスタ	中原区役所
高 津	平成24年11月17日 (土)	高津区こども・子育てフェスタ	高津市民館
宮 前	平成24年10月27日 (土)	みやまえ子育てフェスタ 2012	宮前市民館
多 摩	平成24年9月16日 (日)	たまたま子育てまつり	多摩区庁舎
麻 生	平成24年9月8日 (土)	案山子まつり	麻生区古沢の 田園地帯
麻 生	平成24年11月3日 (土)	長沢中学校区地域教育会議 たぬきフェスティバル	長沢中学校

(c) 人形劇

子どもたちが、地域の伝統行事等に触れることによって、情操が豊かになるよう人形劇を上演してもらいました。

実施状況は次のとおりです。

区	実施年月日	開催場所	劇団	参加人数
川崎	平成24年8月2日(木)	川崎市福祉センター	高津人形座	138
幸	平成24年8月8日(土)	幸市民館 大会議室	劇団D. I. L	149
中原	平成24年7月27日(金)	川崎市平和館屋内広場	劇団風の子東京	182
高津	平成24年8月7日(火)	東高津小学校多目的スペース	劇団D. I. L	135
宮前	平成24年8月9日(木)	土橋小学校	劇団D. I. L	113
多摩	平成24年11月17日(土)	東生田小学校 体育館	劇団風の子	250
麻生	平成25年2月23日(土)	麻生市民館 大会議室	劇団ポポロ	322

(d) 実践集の発行

各こども文化センター及び各わくわくプラザ一年間の活動記録を実践集として発行しました。今後の各館の取組みの参考資料として、また関係者へのPR資料として、役立てて参ります。

(セ) 体験学習の拡充

子どもたちの豊かな人間形成を図るため、市民活動団体等のご協力を得て、様々な体験学習を企画・実施しました。

実施した主なものとしては、科学実験教室・読み聞かせ・伝承遊び・音楽コンサート・食育講座などがあります。

(ソ) 地域ボランティア等との協働推進

子どもたちの情操を高め、創造性豊かな心、共感する心を育てることを目的に、地域で様々な技能、技術、知識等を持つ方々をボランティア講師としてお招きし、通常の活動の中では経験・体験できない技・芸やお話などを披露・提供していただきました。

(タ) 施設修繕・環境整備の推進

施設の基本的安全管理業務として、転落防止柵の設置・破損個所の修復・遊具等の整理・消防設備破損防止器具の設置及び飛散防止蛍光灯の設置等、に取り組みました。

また、エアコン清掃・冷水機清掃・トイレ重点清掃及び排水管の高圧清掃等を実施することで、衛生面にも配慮し、快適で利用しやすい施設作りに努めました。

(チ) 財政基盤の安定確保と円滑な事業運営

指定管理業務の円滑な運営のため、特別費用準備資金等取扱規則に基づき、特別費用準備資金や資産取得・改良に充てる資金を計画的に保有し、財政基盤の安定確保を図りました。

イ 子育て支援・わくわくプラザ事業

川崎市からの委託業務として、保護者の就労等により午後6時までに児童の迎えが難しい保護者のため、子育て支援の視点から午後7時までの児童の居場所と安全を確保する「子育て支援・わくわくプラザ事業」を、全わくわくプラザにおいて実施しました。平成24年度は1,949名が登録し、延べ114,840名の児童の利用がありました。

児童の登録及び利用状況の推移は次のとおりです。

年度	登録児童数	延べ利用人数	1ヶ月平均利用人数	
22年度	1,774 (61)	106,453 (4,743)	8,871	(395)
23年度	1,844 (66)	106,662 (5,182)	8,889	(432)
24年度	1,949 (63)	114,840 (5,197)	9,570	(433)

*登録児童数は3月現在の数 * ()内は特別な支援を必要とする児童数

ウ 地域子育て支援センター（児童館型）事業

地域子育て支援センター事業（児童館型）を平成20年10月に4カ所、平成21年7月より12カ所、平成22年7月から平成23年度までは20カ所、平成24年度は10カ所で受託し、週3日（9:30～12:30）「ふあみいゆ」の名称で開設・運営しました。

乳幼児親子の交流の場として、子育てに関する相談・援助の場所として、地域の子育て情報の提供の場として、多くの利用があり定着してきました。

また、利用者の意見も取り入れた行事（お楽しみ会・工作・誕生会・食育講座・歯科衛生指導・身体測定等）にも、多くの親子の参加がありました。

平成24年度の利用状況は次のとおりです。

区	地域子育て支援センター	児童	大人	合計人数
川崎	ふあみいゆ殿町	2,564	2,432	4,996
	ふあみいゆ田島	1,070	1,000	2,070
	ふあみいゆ浅田	1,784	1,463	3,247
幸	ふあみいゆ南河原	3,820	3,401	7,221
	ふあみいゆ幸	2,380	2,203	4,583
	ふあみいゆ小倉	2,348	2,011	4,359
中原	ふあみいゆ新丸子	2,773	2,624	5,397
	ふあみいゆ平間	2,055	1,722	3,777
麻生	ふあみいゆ千代ヶ丘	2,584	2,427	5,011
	ふあみいゆ柿生	1,430	1,338	2,768
合 計		22,808	20,621	43,429

エ その他（教育実習等）

平成24年度は、実習生、インターンシップ、高校生ボランティア、教員研修の他に、総合的な学習の一環としての中学生ボランティア、夏期のチャレンジボランティアなど幅広い年齢の実習生やボランティア等の受け入れに努めました。

(ア) 児童館教育実習生の受け入れ

平成 24 年度は、実習生 13 名を 12 館のこども文化センターで受け入れました。

アンケートによると、保育士・教員・など、子どもに関する仕事に就くことを希望しており、実習を通し、社会人として働くことのイメージが明確になったようです。「子どものあたたかい居場所」「子どもの大切な遊び場」「地域社会との連携」「中高生の居場所」「母親の交流場所」などが実感として理解でき、学童期の子どもの理解が深まるとともに楽しい実習であったと記されています。

受入れ状況は次のとおりです。

学 校 名	人 数	こども文化センター	期 間
上智社会福祉専門学校	1	藤崎	1 2 日
目白大学	2	高津、麻生	1 1 日
田園調布学園大学	2	宮崎、枡形	1 2 日
関東学院大学	2	小杉、南河原	1 2 日
町田福祉保育専門学校	5	東百合丘、枡形、錦ヶ丘、千代ヶ丘、三田	1 0 日
聖徳大学	1	大戸	1 2 日

(イ) インターンシップの受け入れ

平成 24 年度は 2 名のインターンシップを、2 館のこども文化センターで受け入れました。アンケートによると、こども文化センターでは「時代やニーズに合わせて子どもたちの居場所を作ろうとしている館長・職員・パートナーの奮闘している姿に感銘した」、わくわくプラザでは「学校以外で過ごす子どもの様子がよくわかった」等の感想があり、実習をとおり、業種や職種についての理解が得られたようです。

受入れ状況は次のとおりです。

学 校 名	人 数	こども文化センター	期 間
茨城大学	2	平間、小倉	1 日

(ウ) 職業体験の受け入れ

a 高校生の受け入れ

平成 24 年度は、9 名の生徒を 2 館のこども文化センターで受け入れました。アンケートによると、子ども達の笑顔が自分の達成感になりました等の感想があり、よい社会勉強になったようです。

受入れ状況は次のとおりです。

学 校 名	人 数	こども文化センター	期 間
県立菅高等学校	9	菅、南菅	1 日

b 小・中学生の受け入れ（体験学習）

小・中学生については延べ 2,003 名の生徒を 37 館のこども文化センターで受け入れました。

受入れ状況は次のとおりです。

区	学校名	人数	こども文化センター	期間
川崎	小田小学校	13	小田	2日
	川崎小学校	33	日進町	1日
	京町中学校	3	浅田	1日
	田島小学校	4	渡田	2日
	殿町小学校	20	殿町	2日
	東小田小学校	9	小田	1日
	東門前小学校	5	大師	1日
	向小学校	6	渡田	3日
	臨港中学校	6	田島	1日
幸	戸手小学校	90	幸	2日
	日吉小学校	12	北加瀬	2日
	古川小学校	69	幸	4日
	南加瀬中学校	2	小倉	2日
	塚越中学校	8	北加瀬	1日
中原	木月小学校	8	西加瀬	1日
	宮内中学校	2	宮内	1日
	中原中学校	12	新丸子	2日
	苅宿小学校	15	西加瀬	1日
	下河原小学校	15	平間	1日
	平間小学校	53	平間	1日
	大谷戸小学校	25	大戸	1日
	井田小学校	43	井田	1日
	下小田中 小学校	6	井田	1日
高津	東橘中学校	6	高津	3日
	子母口小学校	33	子母口	1日
	梶ヶ谷小学校	150	梶ヶ谷	1日
	末長小学校	15	末長	1日
	洗足学園 中学校	2	梶ヶ谷	1日
	宮崎中学校	2	梶ヶ谷	3日
	東橘中学校	21	子母口	3日
宮前	西野川小学校	12	野川	1日
	南野川小学校	13	野川	1日
	宮崎台小学校	128	宮崎	1日
	有馬中学校	10	有馬	1日
	白幡台小学校	4	白幡台	1日
	西有馬小学校	24	有馬	1日
	野川小学校	35	野川	1日

	富士見台 小学校	90	宮前平	1日
	宮 崎 小学校	10	有馬	1日
	向 丘 小学校	5	平	1日
多摩	稲 田 小学校	160	長尾	1日
	稲 田 中学校	14	長尾	1日
	宿 河 原 小学校	155	長尾	2日
	菅 小学校	40	菅	1日
	向 丘 中学校	8	長尾	1日
	生 田 小学校	59	錦ヶ丘	1日
	中 野 島 小学校	168	中野島	1日
	東 生 田 小学校	88	栞形	3日
	南 生 田 中学校	36	錦ヶ丘	1日
	南 菅 小学校	48	南菅	1日
	南 菅 中学校	6	南菅	2日
麻生	長 沢 小学校	9	東百合丘	1日
	柿 生 小学校	10	柿生	1日
	千代ヶ丘 小学校	50	千代ヶ丘	2日
	麻 生 小学校	133	麻生	1日

(エ) 高校生ボランティア（学校依頼）の受け入れ

平成24年度は、8名の生徒を5館のこども文化センターで受け入れました。
受け入れ状況は次のとおりです。

学 校 名	人 数	こども文化センター	期 間
県立大師高等学校	4	渡田、田島、殿町	35時間
県立菅高等学校	3	南菅	1日
大東学園高等学校	1	錦ヶ丘	1日

(オ) 中学生ボランティア（学校依頼）の受け入れ

平成24年度は、総合的な学習ボランティア6名の生徒を2館のこども文化センターで受け入れました。
受け入れ状況は次のとおりです。

学 校 名	人 数	こども文化センター	期 間
神奈川県立附属中学校	1	下平間	半日
洗足学園中学校	5	下平間、梶ヶ谷	1日

(カ) チャレンジボランティア（夏期）の受け入れ

平成24年度は、20名の夏期ボランティアの高校生・中学生を1館のこども文化センターで受け入れました。

受け入れ状況は次のとおりです。

主 催	人 数	こども文化センター	期間
川崎市社会福祉協議会	20	幸	1日

(キ) 教員研修「体験活動」の受け入れ

平成24年度は、2名の教員を2館のこども文化センターで受け入れました。
受け入れ状況は次のとおりです。

学 校 名	人 数	こども文化センター	期間
県立鶴見総合高等学校	1	有馬	3日
都立府中けやきの森	1	新丸子	2日

(ク) 事故報告

過去3年間のわくわくプラザにおける事故の件数は、次のとおりです。

月	22年度	23年度	24年度
4	38 (9)	43 (13)	16 (4)
5	23 (6)	14 (4)	29 (6)
6	27 (8)	21 (7)	28 (9)
7	24 (4)	17 (7)	20 (6)
8	16 (4)	17 (5)	15 (3)
9	7 (4)	21 (6)	11 (2)
10	14 (3)	20 (9)	16 (6)
11	20 (7)	19 (7)	19 (6)
12	13 (4)	16 (4)	14 (1)
1	5 (0)	7 (1)	12 (2)
2	4 (0)	4 (2)	7 (3)
3	16 (4)	20 (4)	7 (2)
計	197 (50)	217 (67)	194 (50)

() は、4日以上通院の事故件数

(ケ) 騒音差止等請求事件について

平成22年9月3日付けで、野川こども文化センターに隣接して居住する住民から、川崎市及び同施設の管理・運営を受託する当財団を被告とし、同センターのプレイパークで活動する子どもたちの発する声や音を騒音として、川崎市と共に提訴され、民事裁判となっています。当財団では、顧問弁護士を被告の訴訟代理人として委任し、平成25年3月7日に第6回の和解期日を終えたところです。

(3) 法人の運営

公益財団法人として、その役割・機能を発揮できるよう、法人の組織体制の強化を図るとともに、諸課題の解決に向けて、現場と本部とが一体となって、職員の意識改革をはじめ、様々な観点から法人内部の改革に取り組みました。

ア 業務・組織の改革

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化による総合力の向上を図りました。

また、永年の懸案事項であった給与制度を一本化して、正規職員の勤務条件の一元化を図るなど、法人全体で職員意識の改革を図り一体感を持たせるように取り組むとともに、職員のスキルアップはもとより、資質の優れた人材の育成・確保に努めました。

こども文化センターなどの指定管理業務が各区役所へ移管されたことに対応するため、館長職そして各区を所管するエリアマネージャーについてその責任と権限を明確にして、その責任と権限に見合う手当として職務手当を導入するなど、内部管理体制の強化など体制整備を図りました。

イ 財務改善と計算書類等の作成

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計処理を確実に行うとともに、適正な執行に努めました。また、財政基盤の安定確保と円滑な事業運営を図るために、特別費用準備資金の積立を継続して行いました。

計算書類等の作成では、公益法人としての2年目の事業年度（平成23年度）に係る計算書類等を作成し、5月10日の監事監査を経て、第1回理事会及び第2回評議員会（定時評議員会）で承認を受けましたので、行政庁である神奈川県には、6月27日に電子申請により届出を行いました。なお、計算書類等を事務所に備え置くとともに、貸借対照表を事務所の公衆の見やすい場所に掲示しました。

また、平成25年度の事業計画書等については、3月14日の第4回理事会で承認を受けましたので、3月28日に電子申請により行政庁へ届出を行いました。